



特集

おかえりが 待っている場所



—放課後児童クラブ

問合せ 本所子育て推進課 ☎ 25・21111 内線151

「ただいまー!」。

小学校から下校した子供たちが元気よくやってきます。ここは、小学生に遊びや生活の場を提供する放課後児童クラブ。「学童保育所」と呼んだほうがなじみのある方が多いかもしれませんが、現在、鶴岡市には22の放課後児童クラブがあり、約1、700人の児童が登録しています。



放課後児童クラブって?

昼間、保護者が仕事などで家庭にいない小学生が対象です。放課後だけでなく土曜日や夏休みなどの長期休業期間にも朝から開所しています。子供の健全な育成を図り、保護者が安心して働ける環境をつくることが目的です。また、放課後児童クラブは家庭に代わる生活の場であるとともに、地域の子供たちの交流の場としての役割も果たしています。



運営の体制

放課後児童クラブの運営は、地域の役職者や保護者などで組織される運営委員会や、社会福祉法人等によって行われています。小学校の敷地内の建物や児童館、民家などに設置され、市が条例で定めた基準によって運営されています。

子供たちを見守るのは「放課後児童支援員」と補助員。児童の発達段階や特性に応じた育成支援を行います。研修活動も積極的に行っていて、職員同士で情報交換したり課題の解決に取り組んだりすることで、子供たちのより良い居場所を目指しています。

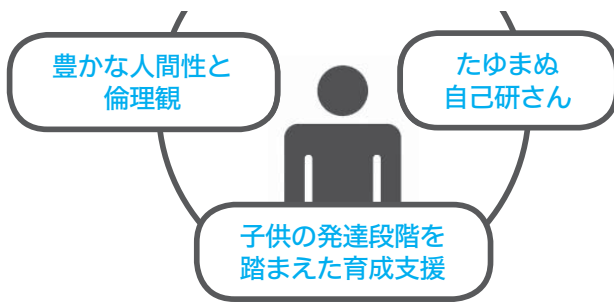
家庭と学校以外のもう一つの居場所である放課後児童クラブ。子供たちがどのように過ごし、その環境を支える職員はどのように働いているのか、その様子をお伝えします。

放課後児童 支援員って？

子供たちが安心して過ごせる場を整え、育成支援を行う仕事です。一人ひとりの発達段階や特性を理解して、時に見守り、時に教えながら自主性・社会性などを育むための手助けをします。また、学校等の関係機関とも連携し、保護者が安心して子育てと仕事を両立できるように支援します。

一定の経験年数または資格等の要件を満たし、資格研修を修了することで認定されます。

放課後児童支援員に 求められる資質と行動



ある

放課後児童クラブの一日(平日)

10:15

開所 (子供たちが登所するまで)

- 職員ミーティング
- おやつ・日用品の買出し
- 日誌記入
- 各種連絡(学校・保護者等)
- 掃除・環境整備
- おたよりの作成
- 保育や行事の準備
- 事務(会計・資料作成等)
- 研修への参加 など

15:00

子供たちの出迎え

- 出席確認
- 宿題の見守り

16:00

- おやつ準備

こんなことに気を付けています!

冬はインフルエンザ等が流行するのでまずは体調のチェック
→発熱などで体調が悪い場合は別室で休ませ、保護者に連絡します

- 保護者への申し送り(子供の様子や体調・けが等)
- 事務
- 掃除・片付け など

19:00

閉所

放課後の生活

登所 学校から直接帰ってきます

- 宿題
- 自由遊び
- ミーティング
- おやつ



帰宅 保護者が迎えにきます

放課後児童クラブはこんな催しも!!

お誕生日会やおやつ作り、夏休み期間中の手作り昼食、映写会、けん玉大会など、仲間と一緒に楽しめる催しを行っています。



子供たちの居場所を支える

市内の放課後児童クラブで働く放課後児童支援員の方にお話を聞きました。

子供たちの成長を見届け
自分自身も成長する



佐藤千歳さん(6年目)
第一学区学童保育所
子供たちからの愛称は
ちとせん

子育てが落ち着いたので、小学校教諭の資格を生かしたいと思いいこの仕事を始めました。

お子さんを預かる以上、安全安心な場所であることを大切にしています。一緒に遊んだり勉強したりする中でも、それだけに集中せず常に周りの様子に目を配るようになっています。また、違う学年の子たちが同じ空間にいますから、うまく気持ちを伝えられずにいる場合などもあるので、間に入ったり寄り添ったりするよう心掛けています。

以前、私とある子がボールの扱い方で議論になったとき

に、「何で俺たちの気持ちを もっと聞いてくれないんだ」と言われたんです。支援員としては安全面などから話をしていたんですが、子供にとっては大人の言い分ばかりだと感じたのかもしれない。そこで、お互いの気持ちを本音で話し、「これからはもっと子供たちの意見を聞いていくからね」と約束しました。本気でぶつかりあったことで、信頼関係が築けたように思います。

日々、こんなふうに改めて教えてもらうことがとても多いです。子供たちと一緒に自分も成長していきたいですね。



保護者の声



佐藤順子 さん

第三学区学童保育所に小学3年生の娘が通う。高校生の長女も卒所生

いつでも帰れるあたたかい場所

放課後児童クラブがなければ勤めることができないので、働いている親にとってなくてはならない場所です。けん玉や手芸など家庭ではやらない遊びも教えてもらっていて、かき編みなんかは私より上手なんです。

上級生が兄弟姉妹のように接してくれますし、娘が下級生の子にお姉ちゃんとして関わることもあるみたいで、いい経験だなと思います。

私自身、支援員の皆さんと保護者との研修会にも参加させてもらっていて、とても勉強になっています。

その中でも皆さんが常にスキルアップしようと取り組まれている様子がかがえて、安心して預けられると感じています。

高校生の娘が顔を出すこともあるんですが、今でも「ただいまー！」と入っていく娘をあたたかく迎えてくださるのもとてもうれしいです。娘たちを支援員の皆さんからも一緒に育ててもらっているなどと思います。何か心配事があると相談に乗っていただくこともありますし、本当にありがたいですね。

「帰ってきた」とほっとできる場所を目指して



長谷川千恵 さん(12年目)
第三学区学童保育所

子供たちからの愛称は
ちえぼう

学校の先生を目指しながらパートで働いていたのですが、子供たちの生き生きとした姿を見る中で、放課後の居場所で関わっていききたいと思い支援員になりました。

「ただいま」と帰ってくる子供たちは元気な日もあれば、悲しそうな日もあります。「今日何かあった？」と話を聞くことですっきりしてくれたり、自分から「今日さー…」と打ち明けてくれたりします。子供たちが求めていることをくみ取れるように表情をよく見て関わるようにしています。

学童という集団生活の場で、子供たちは様々なことを学んでいます。その場所を支えていくことに責任を感じますが、成長の一場面に立ち会えることがとてもうれしいです。

私も2児の母なのですが、保護者の方と接することで自分自身の子育ての勉強になります。支援員同士の研修会なども充実していて、仲間と一緒に子供たちを支える環境が整っていると感じます。

子供たちは学校・宿題・習い事と、忙しい日々を送っています。学童では休息を取りながら、ありのままの自分で過ごしてほしいです。帰ってくる時ほっとできる場所でありたいですね。

